

## 第2章

### 北広島市の地域特性

地域特性に相応しい省エネルギービジョンとするため、道内各都市および北海道全体と比較しながら、北広島市の自然・社会環境・産業特性などの地域特性を把握します。

## 第2章 北広島市の地域特性

### - 1 沿革

市名のもとになっている「広島」は、**1884(明治 17)**年に広島県人 **25 戸 103 人**の入植によって開拓されたことに由来します。

**1894(明治 27)**年に月寒村から分離し「広島村」となり広島村戸長役場を開設、**1968(昭和 43)**年に町制を施行して「広島町」となり、**1996(平成 8)**年の市制施行により現在の「北広島市」になりました。

### - 2 自然環境

#### 1 位置および地勢

北広島市は、石狩平野の南部に位置する周囲約 **52.5 km**、総面積 **118.54 km<sup>2</sup>**の都市で北西側は札幌市、北は江別市、東は千歳川をはさんで長沼町と南幌町に、南は島松川を境界として恵庭市に接しています。

地形は、南西部にある島松山（標高 **492.9m**）から、北東方面に標高 **100m** 前後の波状台地が広がり、波状台地からの幾筋もの水の流れが島松川や輪厚川などの河川となつて、千歳川などを経て石狩川に合流し、日本海へと注いでいます。

地質は、大部分が洪積層からなっており、南西部の丘陵地帯では畑作や酪農、北東部の低地では水田を中心として活用されています。

山林は約 **37.39 km<sup>2</sup>**で、全市面積の **31.6%**を占めており、南西部の島松川、仁井別川沿い及び野幌森林から中央部に広がる国有林が主なものです。



## 2 気象

亜寒帯湿潤気候の裏日本型（日本海側）に属していますが、西部から北東方向にのびる波状台地を境として、局地的な気候変化が見られます。

冬季は冬型の気圧配置にともなう北西の季節風が卓越して雪が降りやすく、夏季は小笠原高気圧の影響でおおむね南東風が吹き、日中晴れる日も多くなりますが、太平洋沿岸から侵入してくる海霧の影響を受けて朝晩に曇ることがあります。また、オホーツク海高気圧が優勢な年は冷涼な北東気流の吹き出しで気温があまり上がらず冷夏となることがあります。

北広島市の平均気温は札幌市に比べ約2℃低く、夏季の日照時間は5月～9月にかけて月平均で約50時間少なくなっています。（図2-1）

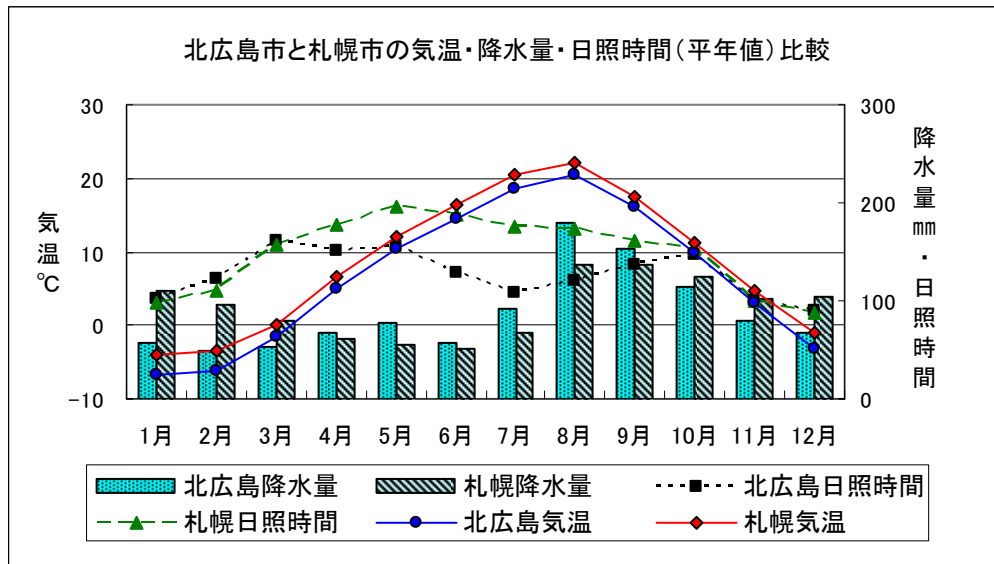


図2-1 北広島市と札幌市の気象特性比較

(資料：気象庁「気象統計情報」)

北広島市の最低気温(平年値)は-12.7℃で道内各都市と比較してみると(図2-2)札幌市、石狩市に比べて寒く、旭川、帯広と同程度となっています。

また、最深積雪の深さ(図2-3)および平均風速(図2-4)は札幌市、石狩市に比べ小さくなっており、これは北広島市の位置によるものと思われませんが、札幌市、石狩市に比べ内陸型の気象を示していると言えます。

北広島市の日照時間(平年値、全年 図2-5)は約1,510時間で帯広市より約500時間、札幌、函館より約260時間少なく、石狩市、旭川と同程度となっています。

北広島市の降水量(平年値、全年 図2-6)は約1,050mmで各都市の平均といえます。

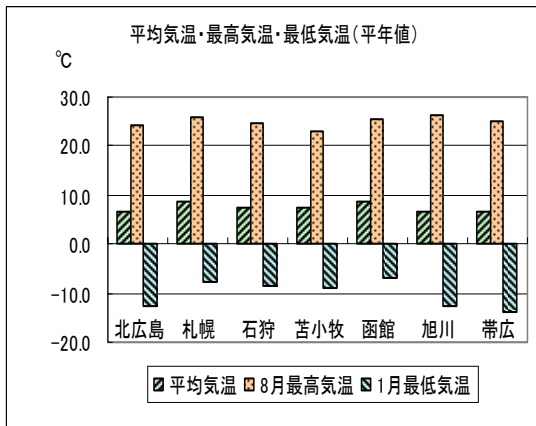


図2-2 各都市との気温比較

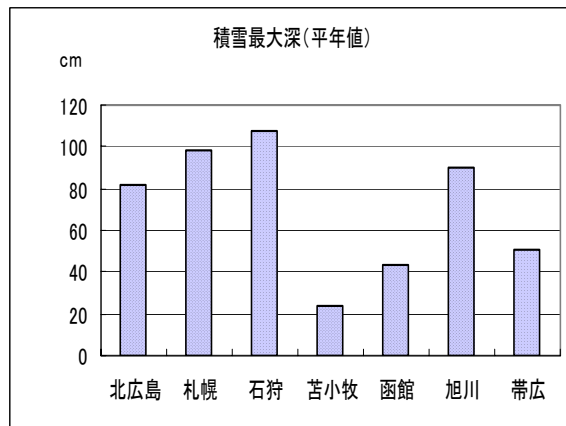


図2-3 各都市との積雪最大深の比較

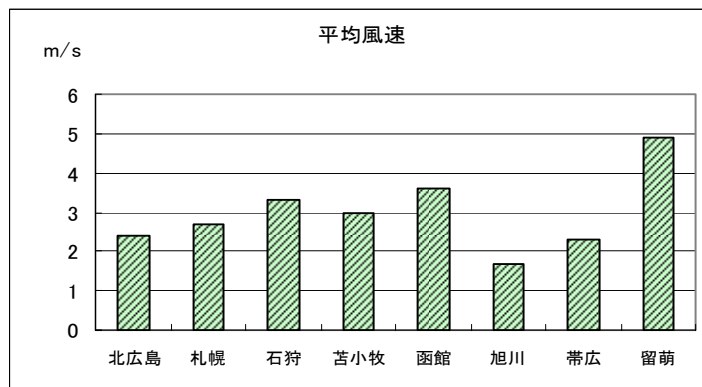


図2-4 各都市との平均風速の比較

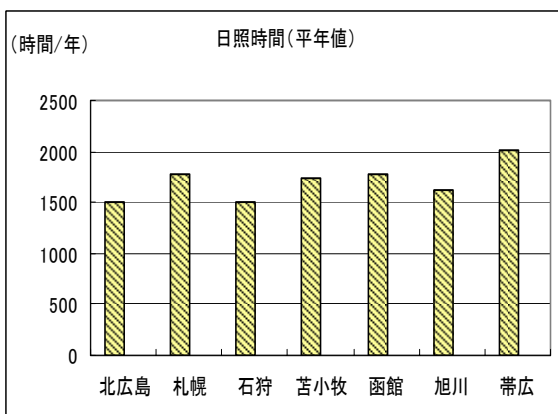


図2-5 各都市との日照時間比較

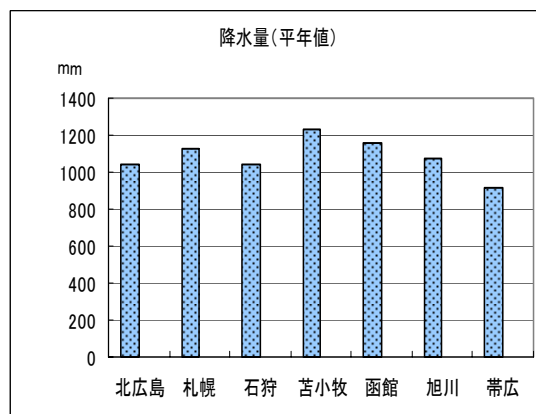


図2-6 各都市との降水量比較

(資料：気象庁「気象統計情報」)

- 3 人口および世帯数

1 北広島市全体

北広島市の人口は**2004(平成16)年9月末現在**で**60,253**人、世帯数は**23,861**世帯で、その推移を見ると、道営北広島団地の開発が始まった**1970(昭和45)年以降**、急増しており、その後も住宅供給が進むにつれて増加し、**1992(平成4)年7月**には人口**5万人**を突破しています。

人口および世帯数は、依然、増加傾向にありますが、世帯平均人数は**1965(昭和40)年**の**4.89**人から漸減し、**2004(平成16)年9月末現在**では**2.53**人と約半減しています。

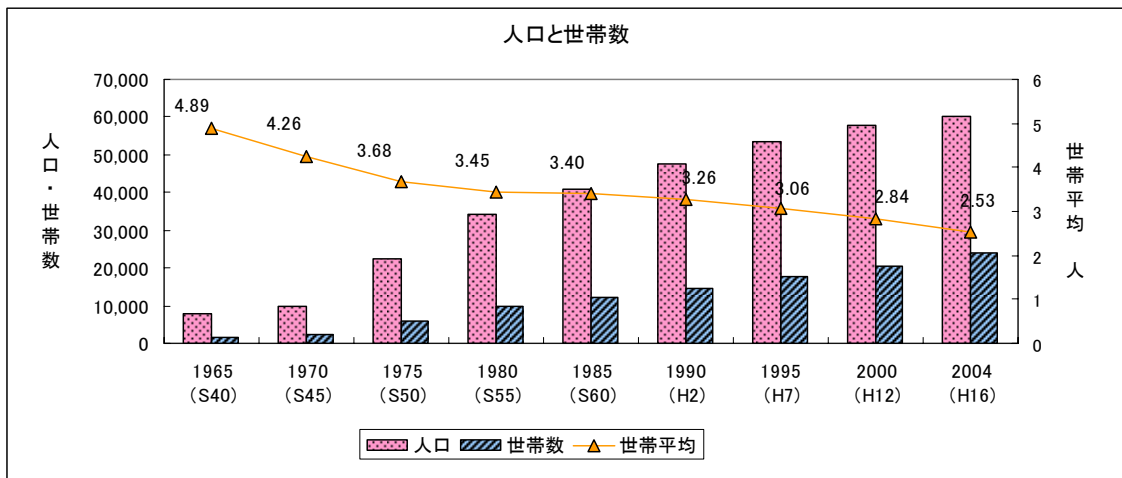


図2-7 人口と世帯数の推移

〈資料：市民課「住民基本台帳」、企画調整課「国勢調査」〉

北広島市の世帯平均人数を道内各都市、北海道と比較すると、北海道全体平均より約**0.3**人多く、また、札幌市、江別市と比較しても高くなっています。

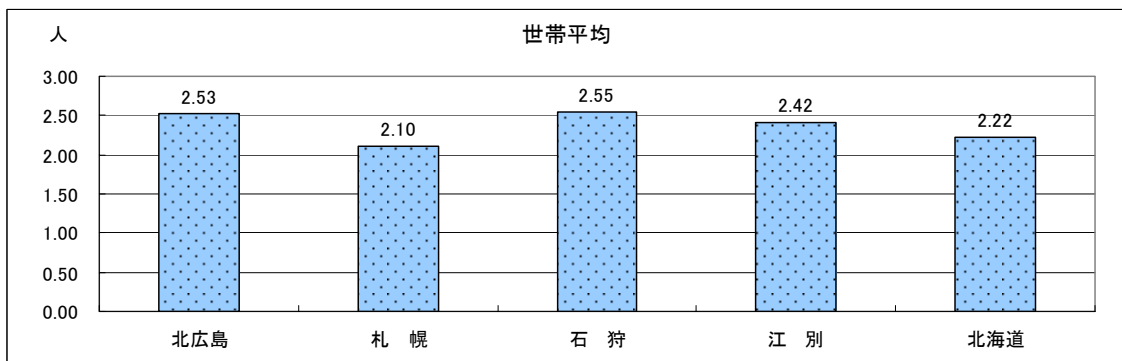


図2-8 各都市、北海道との世帯平均人数の比較

〈資料：北海道ホームページ「住民基本台帳」平成16年9月末現在〉

## 2 地区別

地区別の人口、世帯数、世帯平均人数の推移（図2-9）を見ると、人口は北広島団地地区でわずかに減少していますが、他の地区は増加傾向にあり、中でも、東部地区と大曲地区は大幅な増加傾向を示しています。

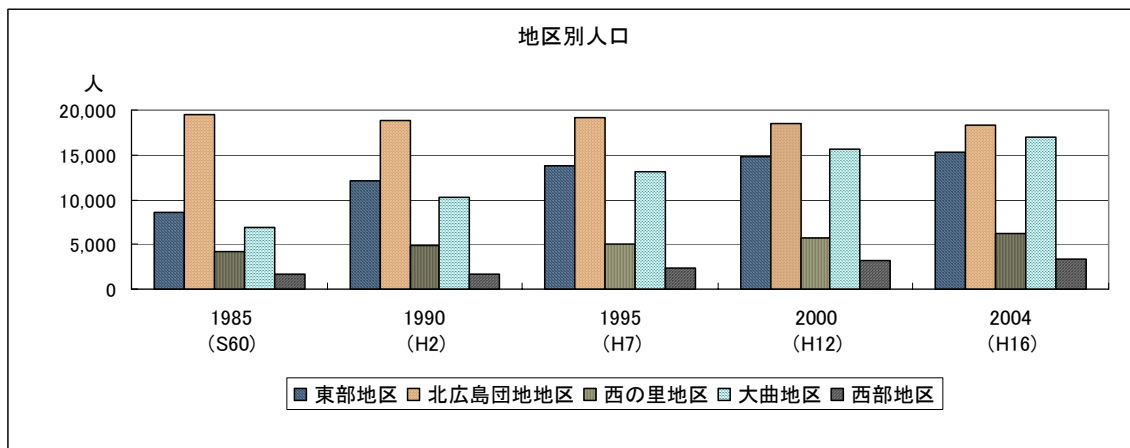


図2-9 地区別人口の推移

世帯数は全地区で増加傾向を示していますが、世帯平均人数は全地区で減少傾向を示しています。

北広島団地地区の人口は微減でしたが、世帯数は増加しているという現象が特徴的です。

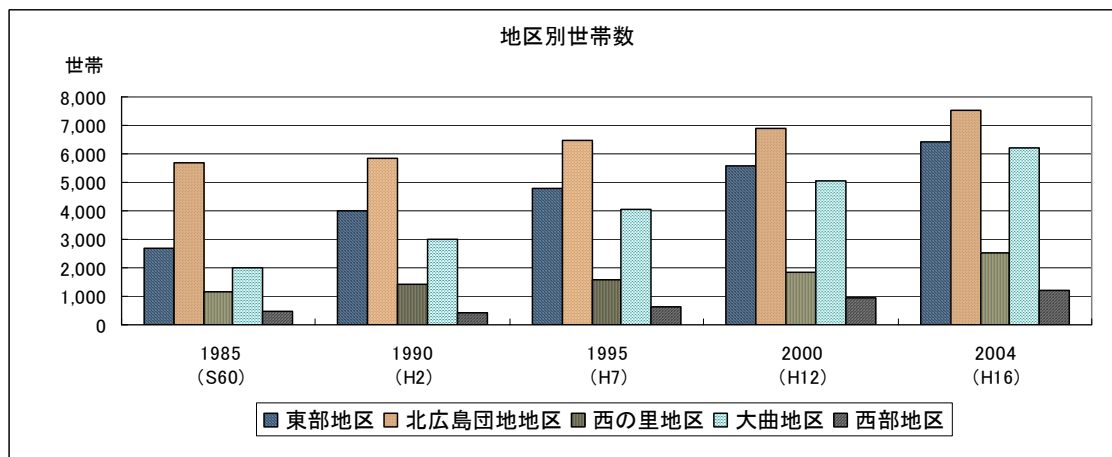


図2-10 地区別世帯数の推移

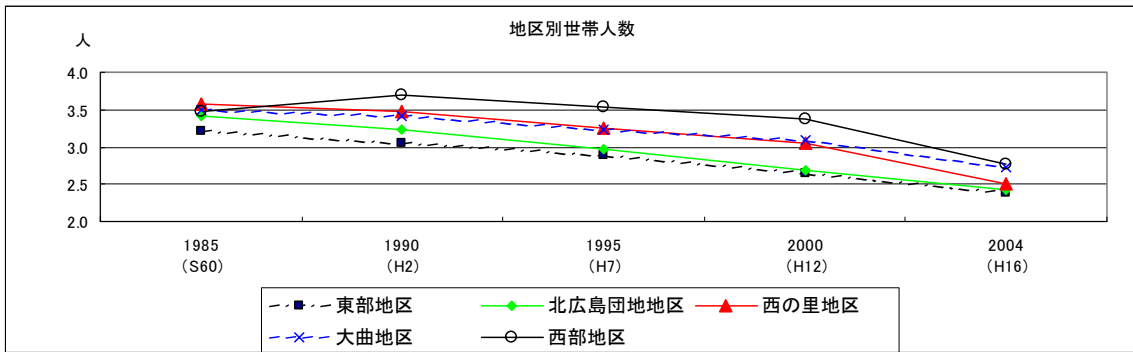


図2-1-1 地区別世帯人数の推移

### 3 年齢階層別

年齢階層別の人口を見ると年少人口（0～14歳）はわずかに減少、生産年齢人口（15～64歳）および老年人口（65歳以上）は増加していますが、老年人口の増加が顕著になっています。

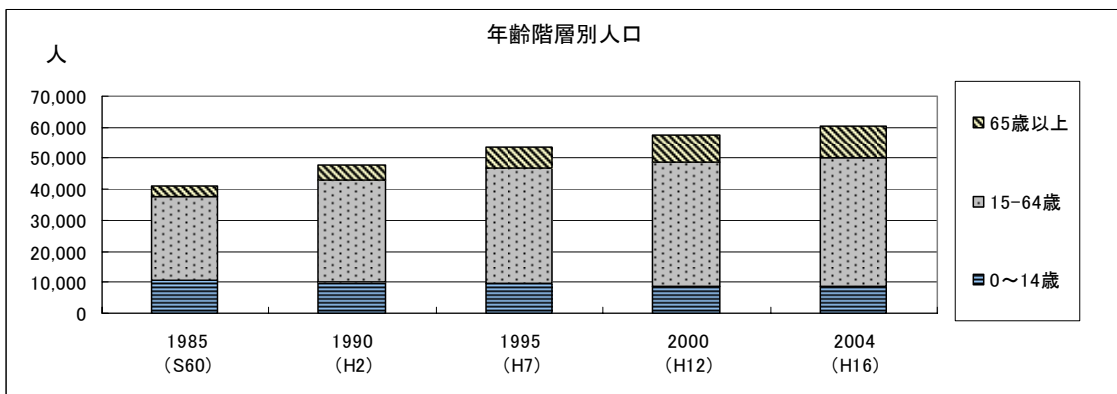


図2-1-2 年齢階層別人口の推移

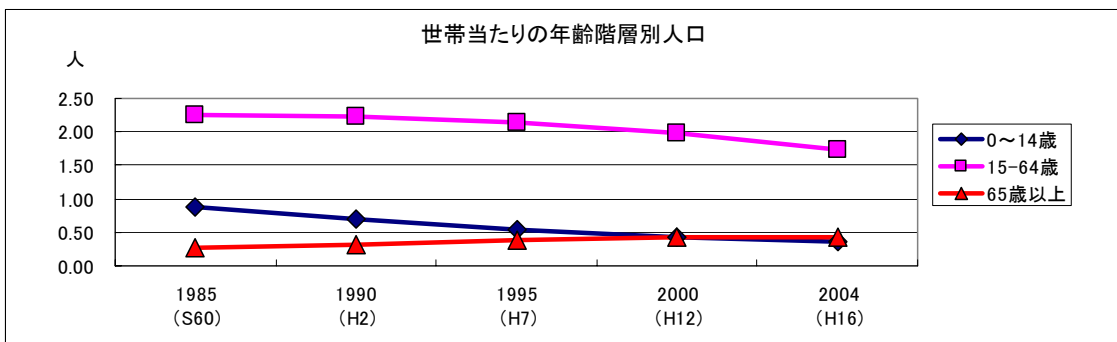


図2-1-3 世帯当たりの年齢階層別人口の推移

年齢階層別人口を世帯数あたりで見ると、生産年齢人口および年少人口は減少していますが、老年人口は増加しています。

北広島市は核家族化、少子化傾向とともに高齢化の傾向が進んでいます。

#### 4 流入・流出人口

北広島市と札幌圏各都市との流入・流出人口を見ると、就業、通学とも札幌市間との関係が強く、流出人口が多くなっています。

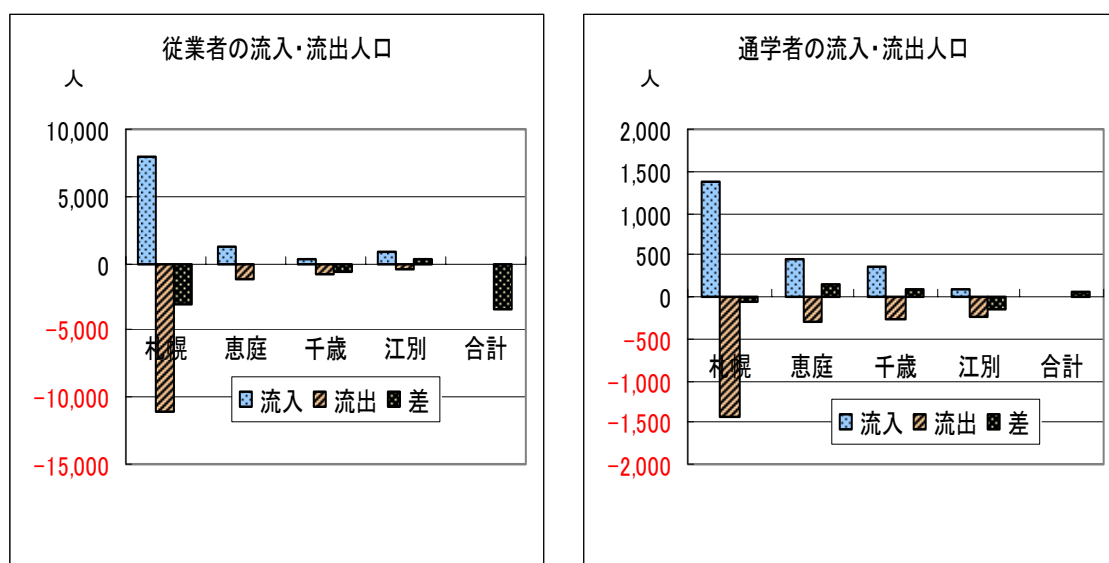


図2-14 北広島市に常住する従業・通学者数

〈資料：H12「国勢調査」〉



- 4 地目別土地面積

1985(昭和 60)年から 2004(平成 16)年の地目別土地面積推移をみると、大きな変化は見られませんが、畑と田を合わせた農地、山林および原野がわずかに減少し、宅地および雑種地がわずかに増加しています。

2004(平成 16)年 1 月 1 日現在における地目別の土地面積比は農地が約 19.9%、宅地が 9.4%、山林が 31.6%、原野が 7.9%、雑種地が 15.8%、その他が 15.3%となっています。

北広島市のその多くが山林や農地、雑種地で占められていますが、宅地が 1 割弱という状況にあり、緑豊かな市街地が維持、形成されています。

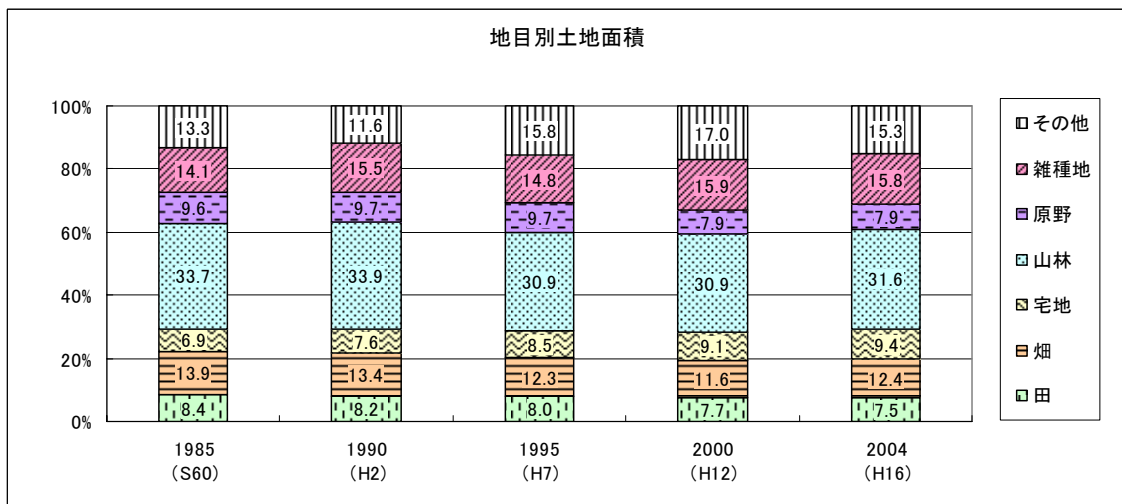


図 2 - 1 5 地目別土地面積の推移

〈資料：税務課「固定資産概要調書」各年 1 月 1 日現在〉

地目別面積を北海道と比較すると水田、宅地の面積比は高くなっていますが、山林の面積比は大幅に低くなっています。

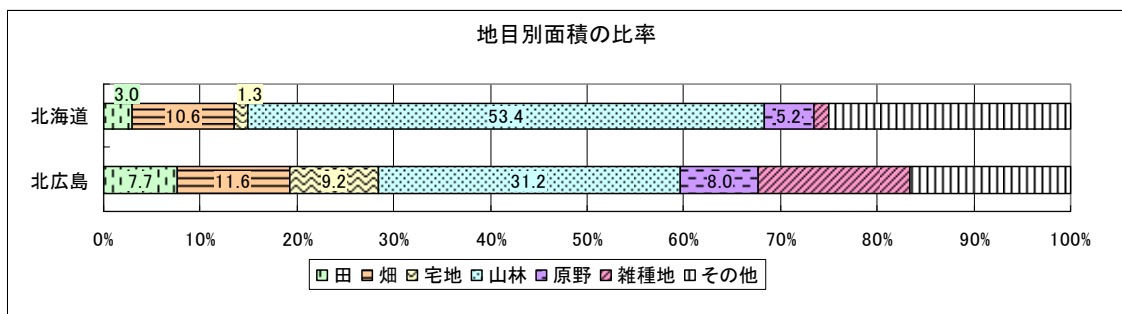


図 2 - 1 6 地目別土地面積の比率

〈資料：「北海道市町村勢要覧」H15〉

- 5 産業構造

1 産業別従業者数（総数）の推移

2001(平成13)年10月1日現在の「事業所・企業統計調査」における産業別従業者数構成割合は多くが農業である1次産業が0.9%となっており、1986(昭和61)年の2.7%から減少しています。

第2次産業従業者数は1986(昭和61)年から増加傾向にありましたが、1996(平成8)年をピークに減少傾向にあり、2001(平成13)年では約21%となっています。

一方、第3次産業従業者数は増加傾向が続き、2001(平成13)年では約78%となっています。

なお、2001(平成13)年の産業別従業者数の比率は第1次産業がわずかに低くなっていますがほぼ全道平均と言えます。

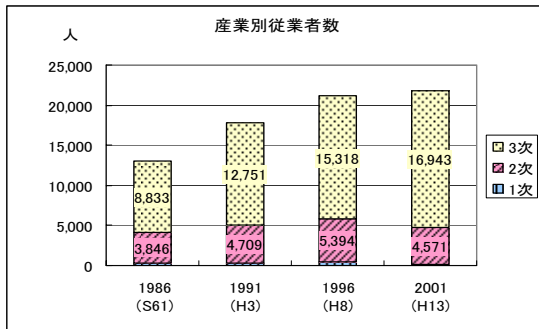


図2-17 産業別従業者数の推移

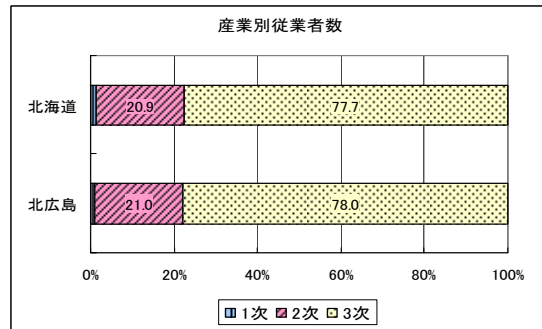


図2-18 産業別従業者数の比較

2 第2次産業従業者内訳の推移

鉱業従業者数は統計上明記されていないため、合計の従業者数から建設業を除いた員数を製造業として、第2次産業の従業者数推移を見ました。

年度により若干の変動はあるものの、2001(平成13)年の製造業従業者数は1986(昭和61)年と比較すると5%増加し、約62%となっています。

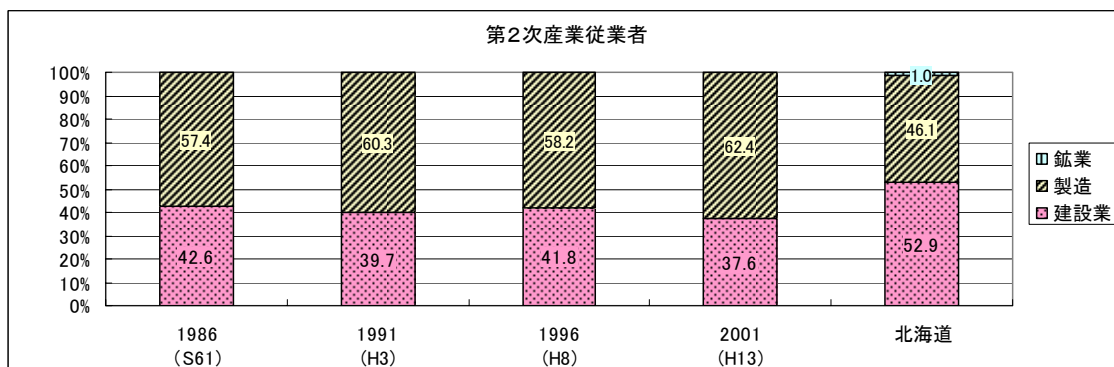


図2-19 第2次産業従業者数の推移

2001(平成13)年について全道と比較すると、北広島市は製造業の比率が高くなっています。

### 3 第3次産業従業者内訳の推移

第3次産業従業者数を2001(平成13)年と1986(昭和61)年で比較すると、変動はあるものの運輸・通信、卸売・小売・飲食店の比率が増加している反面、サービス業の比率が減少しています。

2001(平成13)年について全道と比較すると、北広島市は運輸・通信およびサービス業の比率が高くなっています。

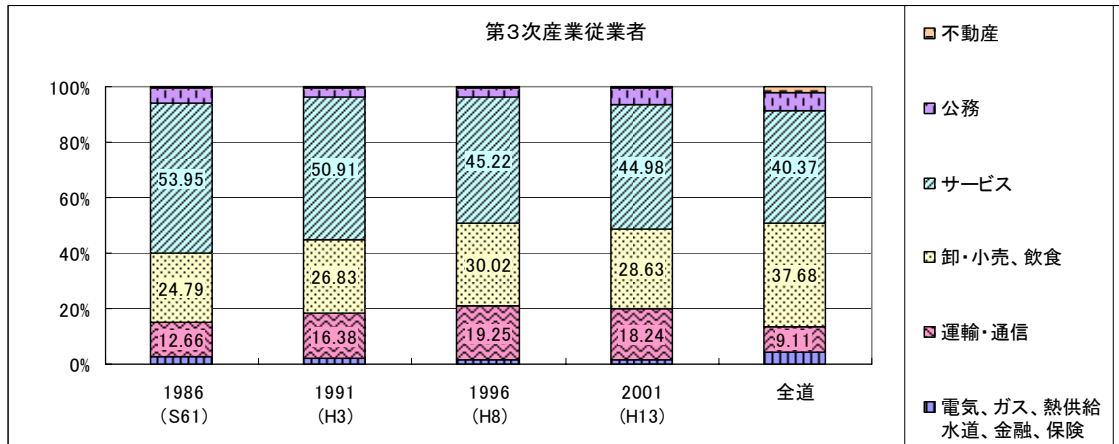


図2-20 第3次産業従業者内訳の推移

### 4 農業産出額、卸・小売年間商品販売額、製造品出荷額

北広島市および北海道の主要な産出額、販売額等は表2-1の通りです。

また、産出額を比較する基準を人口とし、北海道を100とした場合の北広島市の比率を表2-2に示します。

表2-1 農業産出額、卸・小売年間商品販売額、製造品出荷額 (単位: 百万円)

	農業産出額	卸売販売額	小売販売額	製造品出荷額	人口(人)
北広島市	3,630	64,295	36,677	88,506	58,743
北海道	1,045,700	13,571,643	6,676,190	5,608,287	5,707,654

〈資料: 「北海道市町村勢要覧」 H15〉

表2-2 北海道と比較した産出額等の比較

	農業産出額	卸売販売額	小売販売額	製造品出荷額	人口
北海道を100とした北広島市の比率%	0.35	0.47	0.55	1.58	1.03

農業産出額は、野菜生産が約**24%**、養鶏が約**40%**となっており、札幌などの大消費地に隣接した都市近郊型の収益性の高い農業経営が展開されていますが、北海道と比べた北広島市の人口比率は約**1%**であるのに対し、農業産出額比率は**0.35**倍と低くなっています。卸売・小売販売額も北海道と比べると約**1/2**となっています。

しかし、製造品出荷額の比率は**1.58**倍と高くなっています。

製造品出荷額は金属製品および出版・印刷関連がそれぞれ約**25%**を占め、化学工業が約**15%**、食品製造が約**8%**となっており、札幌市を中心とした経済地域の中にあつて工業団地の積極的な誘致によって第2次産業も順調な発展を続けています。

## 5 工業団地

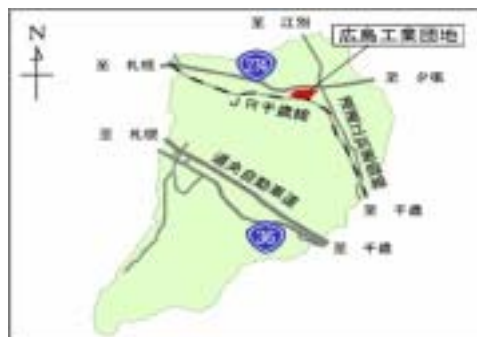
北広島市は道央地区の中央部に位置し、道都札幌市に隣接していること、新千歳空港まで至近距離であること、国道・道道の道路網が整備されていることなどから企業の進出が盛んです。

現在、国道**274**号と道道江別恵庭線の交差点付近には広島工業団地および広島第2工業団地、また、国道**36**号沿いには大曲工業団地、大曲新工業団地、大曲第3工業団地があり、金属製造業、出版・印刷関連業、食料品製造業などおよそ**200**社の企業が立地しています。

### ① 広島工業団地

広島工業団地は国道**274**号の南側に**1996**(昭和**44**)年から市が開発造成しました。

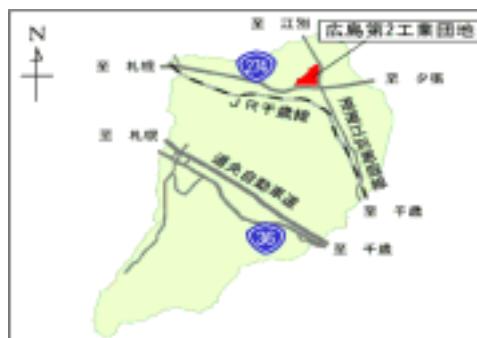
総面積**54ha**の工業団地で、主に鉄工業、金属加工業、機械器具製造業の**16**社が立地しています。



### ② 広島第2工業団地

広島工業団地の向かい北側、道道江別恵庭線西側に「広島第2工業団地」があります。

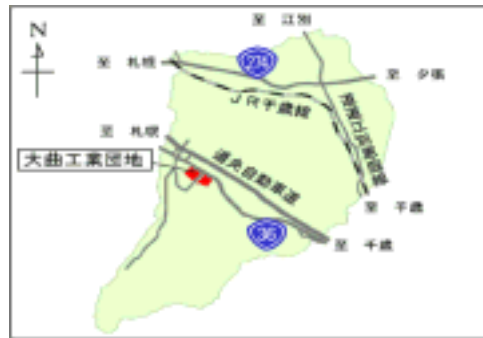
北広島市土地開発公社が**1973**(昭和**48**)年から開発造成し、総面積**53ha**で、主に農業用薬剤医薬品、住宅資材、食品の製造業等様々な企業が約**40**社立地しています。



③ 大曲工業団地

千歳、苫小牧、室蘭方面と札幌圏を結ぶ道央の大動脈国道 **36** 号に接し、道央自動車道北広島インターチェンジが約 **1 km** という好立地条件にある **1969(昭和 44)**年に開発した面積 **73ha** の民間開発の工業団地です。

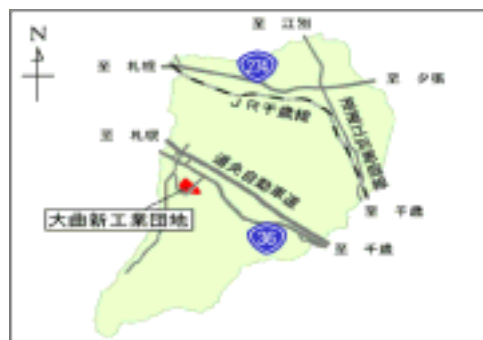
食料品、金属製品の製造業、自動車修理工場等様々な企業が **83** 社立地しています。



④ 大曲新工業団地

北広島市が、**1986(昭和 61)**年度から進出企業の希望を取り入れ、大曲工業団地の後背地に、誘致の後で用地を造成する道内初の「オーダーメイド方式」の分譲を行いました。

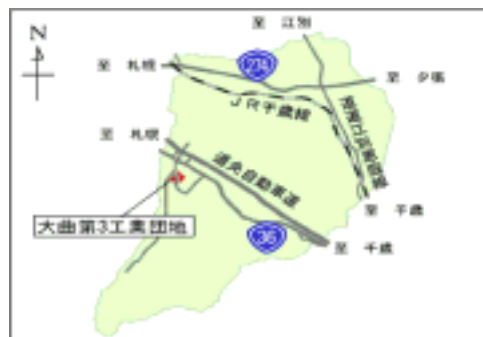
総面積は **37ha** で、ステンレス等の造形業、卸売業等 **33** 社が立地しています。



⑤ 大曲第3工業団地

北広島市土地開発公社が、大曲新工業団地の北西に **1991(平成 3)**年度から事業に着手した工業団地です。

総面積 **50ha** で新聞印刷業、食品製造業、製麺業等 **22** 社が立地しています。



## - 6 交通

北広島市は JR 千歳線のほか、市の西部を道央自動車道と国道 36 号、北部を国道 274 号が走り、また東部を主要道道の江別恵庭線が通っていて、札幌圏と北海道中部および東部を結ぶ交通の要所となっています。

その他に、市の東部地区と西部地区（大曲方面）を結ぶ道道栗山北広島線は市民の主要な生活ラインとなっています。

### 1 自動車保有数

北広島市の自動車保有台数は年々増加していますが、人口・世帯数の増加にともなう乗用車台数の増加が大きく、**2004(平成 16)年 3 月末**の乗用車保有台数は **28,285 台**（軽自動車を含む）で世帯当たり **1.21 台**となっています。

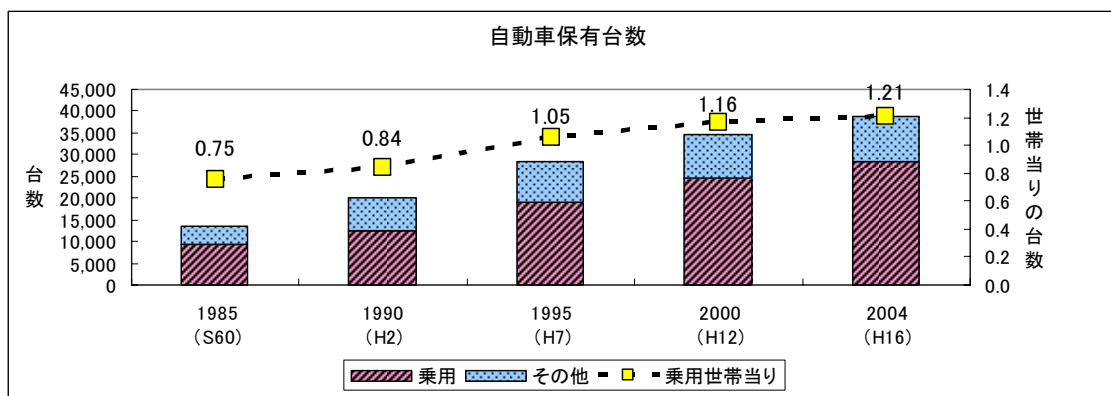


図 2-2-1 自動車保有台数の推移（各年 3 月末現在）

〈資料：北海道陸運協会「自動車統計」〉

**2004(平成 16)年 3 月末**の世帯当たりの乗用車保有台数を札幌市および全道と比較しても、高い数値となっています。

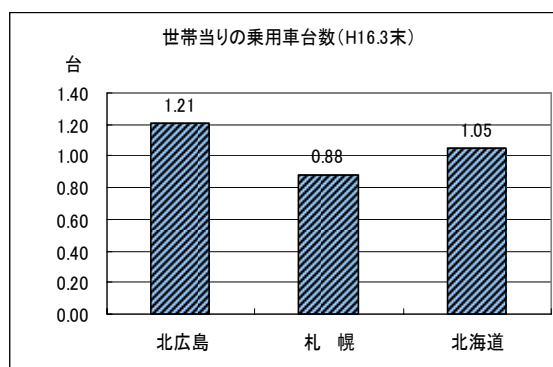


図 2-2-2 自動車保有台数の比較

## 2 JR 利用人員数

JR 北広島駅の利用人員数は人口の増加傾向とは反対に現在減少傾向にあります。

2003(平成 15)年度の 1 日当たりの利用人員数は約 8,360 人となっています。

1 日の利用人員数を北広島市の総人口で割った利用率でも減少傾向を示し、2003(平成 15)年度での利用率は約 14%となっています。

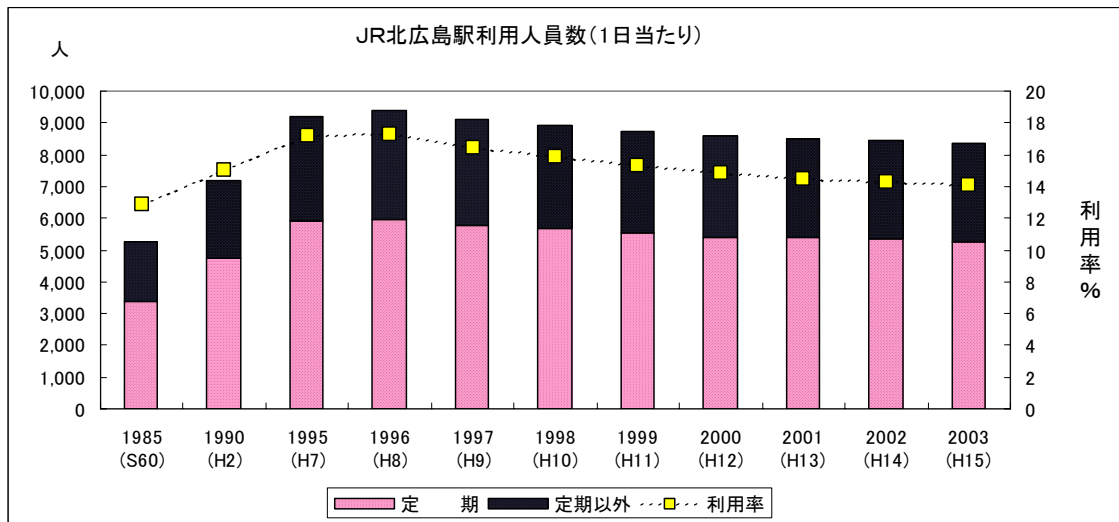


図 2 - 2 3 JR 北広島駅利用人員数の推移

また、上野幌駅は通学、通勤者の増加等から 1998(平成 10)年 3 月 1 日より有人化されました。

一日当たりの利用人員は、1998(平成 10)年度の 1,560 人から 2003 (平成 15)年度の 1,860 人と増加傾向にあります。

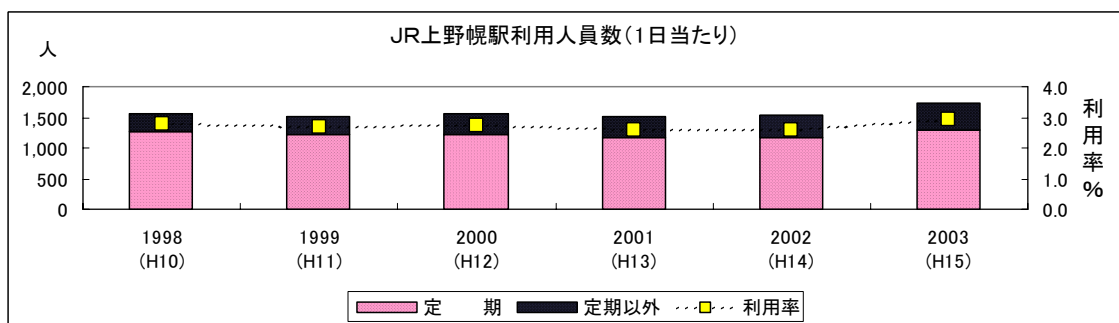


図 2 - 2 4 JR 上野幌駅利用人員数の推移

(資料：北海道旅客鉄道(株) 経営企画部)

### 3 バス

市内を運行しているバスは北海道中央バス(株)と JR 北海道バス(株)の 2 社です。

統計記録が残されている 1995(平成 7)年度からのバス利用人員数を図 2-25 に示します。

市内線・市外線を合わせたバスの利用人員数も JR と同様に減少傾向にありましたが近年は上昇傾向に転じています。

2003(平成 15)年度の 1 日当たりの利用人員数は約 7,960 人となっています。

1 日の利用人員数を北広島市の総人口で割った 2003(平成 15)年度の利用率は約 13.5 %となっています。

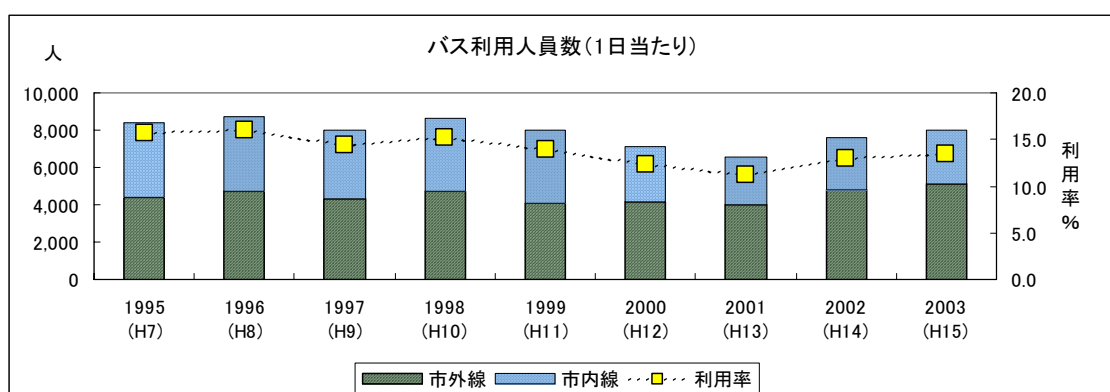


図 2-25 バス利用人員数の推移

〈資料：JR 北海道バス(株)、北海道中央バス(株)〉



- 7 廃棄物

家庭および商店・飲食店などの事業所から排出される一般廃棄物は、資源ごみを除き、クリーンセンターで破碎処理し、埋め立て処分をしています。

びん、缶、ペットボトル、プラスチック製容器、紙製容器、ダンボールなどの資源ごみはリサイクルあるいは有価物として売却しています。

北広島市民一人が1日に排出するごみの量は1998(平成10)年度をピークに減少する傾向にあります。(図2-26)

北広島市は恵庭市、長沼町、南幌町、由仁町、栗山町の2市4町で「道央地域ごみ処理広域化推進協議会」を設立し、2003(平成15)年5月には「ごみ広域処理施設整備基本方針(案)」が同協議会から示され、広域施設整備に向けた取組みが進められることになりました。

一般廃棄物処理基本計画(平成15年度)では、広域処理が始まるまでに、2004(平成16)～2008(平成20)年度までの期間で、普通ごみを150g/人・日削減する目標を設定しています。

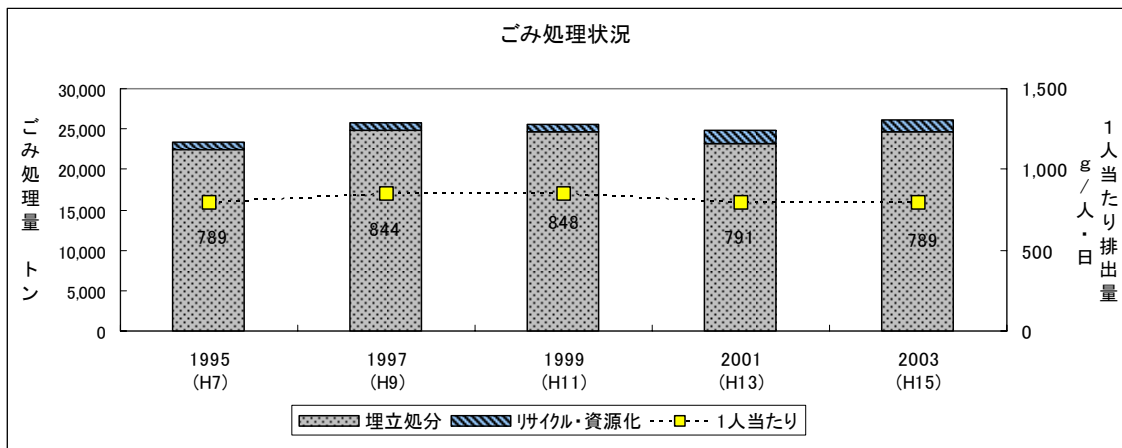


図2-26 ごみ処理状況

(資料：環境課)